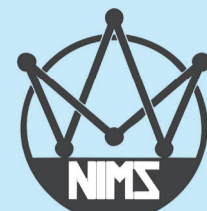




2022 J.J.N 同窓会報



城西放射線技術専門学校 城西医療技術専門学校 日本医療科学大学

第12号
(通巻第45号)
2022年6月1日発行

発行所 城西放射線技術専門学校内 同窓会事務局
〒171-0044 東京都豊島区千早 1-10-26 03-3973-6346
ホームページ: <https://www.josai-rad.ac.jp/JJNdoso/>

編集人 須藤 英明
発行人 武田 一臣

制作 開成出版株式会社
Tel. 03-6240-2806

会告 第12回(59回) J.J.N同窓会総会・学会開催

城西放射線技術専門学校・城西医療技術専門学校・日本医療科学大学 同窓会

令和4年6月11日(土曜日)

午後12:30~受付
午後13:00~開始

会場

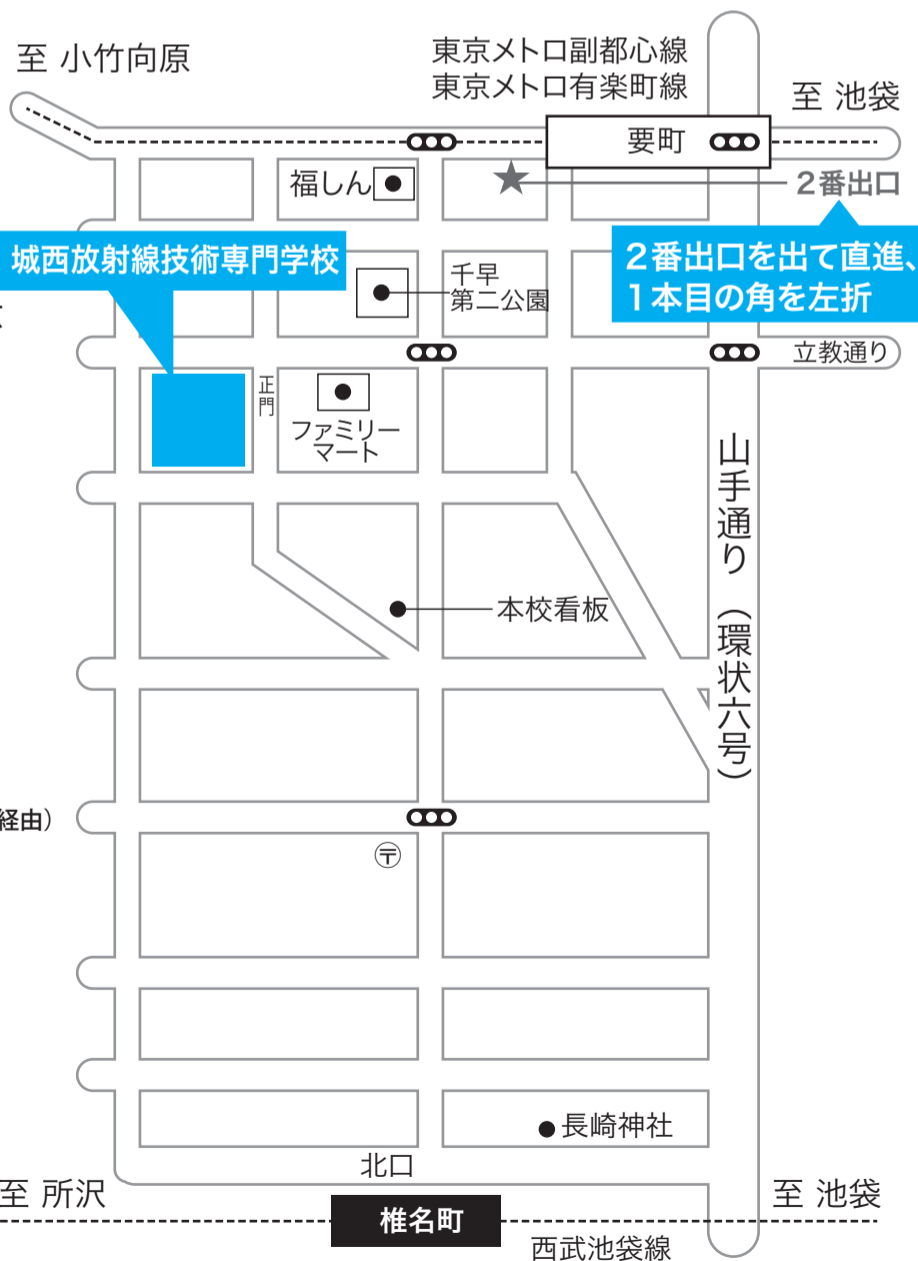
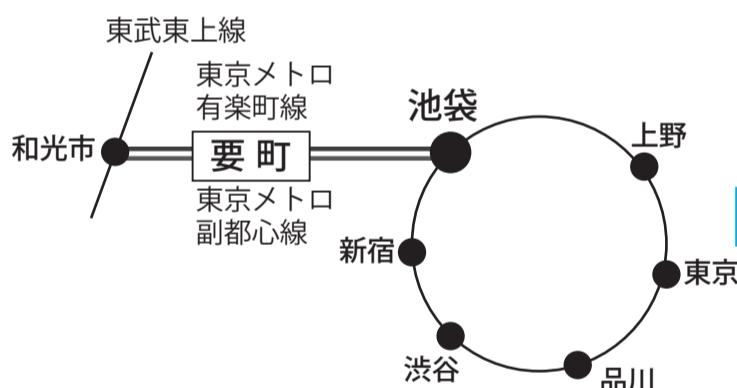
城西放射線技術専門学校 2F視聴覚室
Zoomライブ配信によるハイブリット開催

(新型コロナウイルス感染症流行の状況によっては内容の変更となる場合もございます)

今回は Zoom 配信が行われるため、地方からの会員参加も心からお待ちしております。総会は第25条に沿って実施いたしますが今回は理事会臨時決議により Zoom での参加も出席とみなすことといたします。

会場での参加 : 城西放射線技術専門学校へのアクセス
<https://www.josai-rad.ac.jp/introduction/access/>

アクセスマップ (池袋から1駅)



〈池袋から1駅〉

- 池袋駅より東京メトロ有楽町線・副都心線「要町」駅下車徒歩6分
- 池袋駅より西武池袋線にて1駅「椎名町」駅下車徒歩8分

池袋駅へのアクセス(※JR山手線を利用の場合)

東京駅より24分
新宿駅より8分
品川駅より28分
羽田空港より50分(東京モノレール⇒浜松町駅経由)(京急線⇒品川駅経由)

Zoomでの参加 : 次ページをご参照下さい。

Zoomでの参加：以下のミーティングID、パスコード、またはQRコードより参加できます。 (学会まで一連の参加が可能です)

- トピック JJN 同窓会 総会・学会 (2022)
- 時間 2022年6月11日 12:00 PM 大阪、札幌、東京
- Zoom ミーティングに参加する
<https://us06web.zoom.us/j/83501384602?pwd=V1NxbUR3RUprd25Jdmt4d1pza0tjQT09>
- ミーティングID 835 0138 4602
- パスコード JJN2022



QR コード



⑨ Zoom 参加の際は名前を以下の通り設定していただけますようお願いいたします。

例： 1R 城西太郎 87

先頭の数字 → 卒業学校名は次の番号で先頭にご記入ください。

- 1：城西放射線（レントゲン）技術専門学校
- 2：城西医療技術専門学校
- 3：日本医療科学大学

続くアルファベット → 学科・専攻は次のアルファベットを記載ください。

- R：診療放射線
- P：理学療法
- O：作業療法
- N：看護
- C：臨床工学
- L：臨床検査

氏名 → 苗字、名前ともご記入ください

最後の数字 → 卒業年度を西暦下2桁で記載ください（忘れた場合は省略可）

名前の設定が正しくないとミーティングに参加できない場合があります。

会議中発言時以外はマイクを切っておくようお願いいたします。

会告 役員選挙のお知らせ

次期会長・副会長（部会長）の選出を第12回（59th）総会にて実施

正会員で立候補するものは事前に部会名、卒業学校、学部、年度を記載の上選挙管理委員まで届け出てください。

会場 城西放射線技術専門学校 2F 視聴覚室
 午後13:30～予定
 会場参加者、Zoom参加者の評決にて
 選挙管理委員 川竹 幸祐
 届け出は jjn_sudo@ymail.ne.jp 事務局 須藤英明まで

会告 会員学術発表会を開催いたします

第12回（59th）JJN 同窓会総会の開催に伴いまして会員学術発表会を開催いたします。

日時：令和4年6月11日土曜日 14:00～（予定）
 会場発表・Zoom発信・事前録画発信
 会場：城西放射線技術専門学校 2F 視聴覚室
 Zoomにての聴講も可能となりますのでたくさんの会員の方々の参加をお待ちしております。Zoom参加は総会参加と同様のID・パスワードです。

会員学術発表会 抄録

受傷機転の無い、両側大腿骨頸部骨折の一例 ～脆弱骨の保護に着眼し、自宅復帰した症例～

日本医療科学大学 理学療法学専攻 (10期生)
高木病院 リハビリテーション科 清水 紘平

【症例紹介】

72歳女性。既往歴は関節リウマチ(RA)(steinbrockerⅣ)、骨粗鬆症(YAM31%)、脊椎圧迫骨折。明らかな受傷機転なく2日間で右大腿部痛が徐々に増悪し受診。両側大腿骨頸部骨折の診断で入院。術前よりPT介入。同日、右(GardenⅣ)人工骨頭置換、左(GardenⅠ)ORIFを施行。翌日より骨密度低下防止の為、痛みに応じた荷重が許可されPT再開。自宅の上がり框が24cm、12cmの踏み台利用、手すり利用にて臀部介助にて生活。

【評価結果と問題点】

術後2日目評価結果：下肢MMT(右/左)腸腰筋、大腿四頭筋、ハムストリングス3/3、前脛骨筋・下腿三頭筋4/4。術創部痛と皮膚伸張痛NRS(右/左)6/4。車椅子乗降時、右下肢膝折れ(+),立位姿勢は体幹屈曲、骨盤後傾、下肢屈曲位。

問題点：両下肢骨折術後による下肢支持性低下、筋出力の低下、異常姿勢、RAによる骨の脆弱性を挙げた。

【介入内容と結果】

自宅退院をゴールに、再骨折予防及び関節保護を考慮し介入した。術直後は股関節周囲の筋出力低下にて膝折れが生じた。術後1日目より車椅子離床、4日から膝折れが改善した。術後5日目から平行棒内歩行練習、術後7日目よりサークル歩行、術後19日目車輪付き歩行器を実施。下肢支持性が増加し、下肢と上肢の荷重量の調節を実施。

結果、-17kg下肢荷重量の軽減を図ることができた。また、上肢荷重量増加目的で、受傷前から使用していた歩行器を低く設定、歩行後に右肩関節に疼痛が生じた。その為、前傾位姿勢から正中位にし、股関節周囲の筋・関節負荷を抑えることを目的に歩行器を高くした。疼痛増悪や関節保護の目的で上がり框はスロープの設置、車椅子介助にて実施するよう提案。

退院時(術後29日)下肢MMTは全て4/4、へ改善。疼痛は、NRS2/1、立位姿勢は、体幹軽度屈曲位になり股関節伸展がみられた。術後31日目車輪付き歩行器で自宅退院。

【結論】

RA由来の大腿骨頸部骨折では、明らかな受傷機転が無い、spontaneous fractureが多いと報告され、本症例も一致している。本骨折は骨粗鬆症を基盤として発症する疲労骨折の一型であるとされる。従って、過剰なストレスが加わり発生するstress fractureであり、脆弱骨による骨折ではないかと考えた。RAにおける大腿骨頸部骨折の主因は、骨粗鬆症のほかに下肢変形、人工関節の緩みなどによるストレスの集中と報告されている。本症例は、今後再骨折を予防するため上記の報告から①骨へのストレス ②関節変形・負担の工夫を基に問題点を抽出した。骨へのストレスを軽減するために、下肢への負担を上肢にて代償。上肢へ荷重量を上げたことで関節痛の有無や翌日の反応で決定した。結果として、下肢荷重量が-17kg軽減できた。立位姿勢から体幹前傾を改善することで、重心が股関節軸に近づき、股関節周囲の筋・関節負荷を抑えることができ関節変形、再骨折予防が見込めると考える。階段昇降は平地歩行と比較し床反力は+1.3倍～1.4倍である。自宅の上がり框は、スロープでの車椅子介助を提案することで再骨折予防に繋がると考える。

【倫理的配慮、説明と同意】

ヘルシンキ宣言に沿って趣旨を説明し同意を得た。

【謝辞】

本研究においてご指導ならびに、ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。

また、本演題は第10回日本運動器理学療学会学術大会にて発表予定です。

会員学術発表会 抄録

腰椎椎間板ヘルニアを伴う腰椎脊柱管に対し、 後方椎体固定術(PLIF)を行った症例～再発予防に着目した考察～

令和元年度 理学療法学専攻 卒業
上尾中央総合病院 伊東 篤士

【はじめに】

今回、腰椎椎間板ヘルニアを伴う腰椎脊柱管に対し、後方椎体固定術(PLIF)を行った症例に対し、再発予防に着目した考察をしたので報告する。

【症例紹介】

年齢：70代前半 性別：女性 身長：154cm 体重：83kg BMI：34.9

診断名：腰部脊柱管狭窄症(L3-L4)

術式：脊椎固定術(L3-4 後方椎体固定:PLIF)、骨移植術(軟骨移植、同種骨移植)

現病歴：2020年12月頃より下肢痛を自覚し近医を受診、腰椎椎間板ヘルニアを伴う腰椎脊柱管狭窄症と診断。

近医での神経ブロック注射で改善せず、本人の手術希望の為、当院に入院となった。

主訴：腰がいたい。

【理学療法評価】

<術前>

画像：L3-4間に後正中型のヘルニア 両側L2-4黄色靭帯の肥厚 左L3-4椎間孔の狭窄

疼痛：最近一月あたりで下肢痛は消失し、腰痛がNRS5程度。前屈では疼痛なく、前屈位からの伸展で腰部痛あり。側臥位での腰椎屈曲で疼痛なし、パピーポジションからのon handで左下肢疼痛増悪。

感覚：障害なし 深部腱反射(L/R)：膝蓋腱反射：-/- アキレス腱反射 -/-

key muscle(L/R)：L2、腸腰筋：4/4 L3、大腿四頭筋：4/5 L4、前脛骨筋：4/5

L5、長母趾伸筋：3/3 S1、下腿三頭筋：3/3

<術後>

神経所見：術前評価と比して、感覚・筋力・反射に変化なし。疼痛：術創痛NRS3-5

ROM(L°/R°)：股関節伸展-5/0 内転10/15 1

st 外旋35/30 内旋50/50 胸椎伸展制限++

整形外科テスト(L/R)：SLR：70°/80° Ely：+/+ Thomas：+/- Ober：-/-

立位sagi：胸椎後弯、骨盤中間位、膝屈曲 kneeling sagi：胸椎後弯、骨盤前傾、股関節屈曲

考察：画像評価よりL3-4間ヘルニア、左側椎間孔の狭窄を認め、パピーポジションでの疼痛増悪することから腰椎伸展ストレスにより惹起される狭窄症症状が主症状と考えた。L3-4間のPLIFにより疼痛、

筋力の改善を期待でき、最低限の筋力増強をプログラムに加える。本症例は画像・姿勢評価より動的な腰椎の不安定性、股関節伸展制限、胸椎伸展制限による腰椎伸展ストレスを増強していたと考察した。今回の術式により L3-4 間の椎体が固定され、隣接関節の可動性が更に要求される。そのため隣接関節の狭窄症再発のリスクを最大限徐すために、股関節・胸椎の可動域訓練をプログラムに立案した。

【GOAL 設定】

STG (2 週)：股伸展域での kneeling 保持、quad 筋力向上 LTG：再発予防、長距離歩行獲得

【治療プログラム】

1 股関節伸展 ROMex # 2 胸椎伸展 ROMex # 3 quad、T・A の筋力トレーニング # 4 動作指導

会員学術発表会 抄録

当院の脳動脈瘤コイル塞栓術に対する血管撮影装置 Registration テクニック・限界角度の検討

日本医療科学大学 診療放射線学科 (2期生) IMSグループ 横浜新都市脳神経外科病院 画像診療部 迫田 真広

【背景・目的】

血管撮影室での脳動脈瘤コイル塞栓術 (以下 IVR) において、非造影による低線量 3D 回転撮影 (以下 3D-RA) のみを IVR 直前に行い、以前の造影剤を使用した 3D-RA と Fusion および位置補正 Registration させることで、非造影でも IVR 当日の血管位置情報が得られ有用となる (以下 Non Sub 3D 法)。当院では IVR の際、診療放射線技師が術者にワーキングアングルを提案する事から、術前にアングルが把握できる Non Sub 3D 法は有効と考える。今回、当院血管撮影装置における自動での Non Sub 3D 法の検討と有用性を報告する。

【方法】

血管撮影装置は SIEMENS 社 Artis Zee、ワークステーション (WS) は syngo workplace、ファントムは厚切りベーコン及びリモコンを使用した。ファントムを寝台に対し X 軸・Y 軸・Z 軸に 1 軸に対して 0 度～180 度 10 度ずつ可変させ撮影を実施し、Volume data を WS に取り込み、Fusion における

Registration の検討を行った。評価方法は VolumeRendering 画像・MPR (3 方向) 画像の 4 点における視覚評価で行った。

【結果・考察】

血管撮影室 WS において自動 Non Sub 3D 法は可能であった。X 軸・Y 軸・Z 軸で各々の限界角度が異なることがわかった。CT・MRI データと血管撮影室 3D-RA データとの自動 Non Sub 3D 法は可能であった。当院では脳動脈瘤コイル塞栓術を行う際に診療放射線技師がコイル塞栓術時に最適な角度 (ワーキングアングル:WA) を作成し術者に提案及び共有を行っている。WA の作成の際、場合によっては術前から頭を傾げる、顎を上げるなど確実な WA を作る工夫を行っている。Fusion による Registration を行い、術前に動脈瘤と周辺血管の位置関係を把握することで WA をイメージすることができ、迅速かつ確実な WA 構築に繋がる。そのため、WA 構築時間の短縮にも繋がり術者の手技を遅滞なく治療が可能となった。当院において Registration テクニックが臨床現場では有効であると考えられる。

同窓会長挨拶



本部同窓会開催のお知らせとご協力のお願い

JJN同窓会 会長 武田 一臣

コロナ禍が長引き新種の株が出てくるなど、まだ先がしばらく見通せないなかでの活動が続きます。対面式での会合が難しい状況のなかにあっても、役員からのアイデアを活かして、Zoom によるリモート会議をすすめています。私はパソコンをよく理解していませんが、職場を含めて、周りの方からサポートしていただきながら、何とか対応しています。

遅ればせながら会誌も発行させていただきました。発行にかかわった

関係者の皆様のご苦労には、心より感謝申し上げます。厚くお礼を申し上げます。

6 月には本部同窓会 (総会・学会……懇親会は除く) を開催いたします。会場は城西放射線技術専門学校です。開始は午後 1 時からを予定しています。コロナ感染を予防するために、会場での参加は少人数とし、Zoom 配信による並行開催を行います。何分、初めてのことなので不安もありますが、学校のご協力を得ながら進めてまいります。詳しくは同窓会ホームページをご覧ください。

改めまして皆様こんにちは。全国の会員の皆様には大変なご心配をおかけして申し訳ありません。同窓会は一体どうなったのだろうか、活動は無くなったのだろうか、会そのものをやめてしまったのだろうか……。そんな皆さまからの、ご心配される声が耳に響いて参ります。このままではよくないということはわかっていますが、どうすればよいのかわからず日々を過ごしてまいりました。同窓会役員からのご意見や、学校の末永先生の助言をいただき、『Zoom 会議』を選択いたしました。当然私はついていけずご迷惑をおかけしましたが、何度も練習を重ねて今日にいたりました。先ほど述べた通り、会誌の発行を無事に終え、次は会報 (新聞) の発行です。記事の

主な内容は、これまでは同窓会・学会のお知らせでした。今年の 6 月に予定した、本部同窓会はどうするのか、長い間検討を重ねてまいりました。昨年末から「ぜひ開催しましょう」との機運が盛り上がり、模索してまいりました。これまで経験したことのない催しとなりますが、できることを精一杯努めさせていただきます。皆様からのご指導とご助言をお願いいたします。

当日はご不便やご迷惑をおかけすることが多々あるものと思います。不慣れな点をお許しいただいて、皆様のご参加をお待ちしております。

部会長挨拶



放射線部会長

日本医科大学付属病院 吉野 彰太

放射線部会長を務めさせていただいている日本医科大学付属病院の吉野彰太と申します。今の放射線部会は若手で構成されています。若い力がもっと必要なので、お手伝いして下さる方がいましたら是非よろしくお願い致します。

現在私は、職場で放射線治療業務を担当していて、治療部門で新しいシステムを導入したのでお話しさせていただきます。

今年度から治療 RIS (+ELEKTA 社製 MOSAIQ) を導入しました。

放射線治療情報管理システムとも呼ばれていて、ワークフローを一元管理できる患者情報システムとなっています。

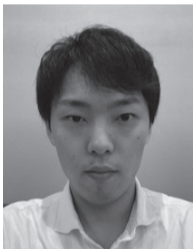
診断部門では主に RIS(放射線科情報システム) が用いられていて、治療 RIS とは内容が少し異なります。導入前と変わった点は、患者受付、会計、照射録、位置照合情報の管理が1つの端末で可能となったことです。今までは、診断用 RIS 端末で患者受付をして、MOSAIQ 端末で患者を選択しリニアック (ELEKTA 社製 Synergy) で照射して診断用 RIS 端末で会計を行って

いました。治療 RIS を導入したことで、患者受付、会計を治療 RIS 端末で行うことができるようになりました。患者さんの照射録に関しても、今までは FileMaker で作成したものを患者さんごとに作成し紙で出力、毎日手書きで何 Gy 照射したのか記録していましたが、治療 RIS 内にデータとして記録されているものを使用しています。これは必要に応じてレポートとして紙出力も可能です。また、IGRT を行う際の位置照合情報についても今までは FileMaker で過去の寝台移動量を全て入力し、ズレや修正量を確認していましたが、MOSAIQ(治療 RIS) で管理することにより、入力の手間がなくなりました。患者情

報の受け取り時についても今までは MOSAIQ 端末、診断用 RIS 端末、FileMaker、と3つの端末で確認、入力を行っていましたが、治療 RIS 端末1つで行うことができるようになり、かなりの作業効率化が図れたと感じています。みんなで協力して効率的で使いやすいものを作っていければと思っています。

最後になりましたが、JJN 同窓会のますますの発展に努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。

部会長挨拶



作業療法部会

小江戸リハビリ訪問看護ステーション 松尾 紀志

昨年は、新型コロナウイルスの感染拡大により、療法士としての仕事だけでなく、あらゆる社会活動が制約を受けながら変容した1年でした。感染の決定的な収束の見通しが立たない中、その影響は今年度も

大きく残ることとなります。

社会環境、生活環境が大きく変化中、これまでとは異なる新たな課題が地域で生まれています。今年度は、新型コロナウイルスとの向き合い方も少しずつ変化し、新たな課題に取り組む事となると思います。

新型コロナウイルスにより、改めて気付かされた事があります。患者様や利用者様が、家族と会えることをどれだけ大きな活力に変換しているかです。会えなくなってしまった事により、マイナスな方面に状態が進んでいってしまう方も多く、自分自身も考えさせられました。今回のコロナウイルスでは、人と直接会って話す事の大切さや、有り難さを感じさせて頂きました。その気持ちを

持って、今後も目の前の患者様や利用者様に関わっていきたいと思います。

今後の活動にあたっては、皆様からお力添えを頂くこともあると思いますが、改めて1年間、よろしくお願い致します。

部会長挨拶



理学療法部会

くらんど整形外科 島田 直宜

拝啓
時下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。平素より同窓会運営へのお力添え、厚くお礼申し上げます。

理学療法部会の活動内容について報告させていただきます。

理学療法部会では Zoom を利用したオンラインでの定期的な会議ならびに勉強会を 2021 年 7 月から開始しました。約 1～1.5 か月に 1 回の頻度で実施し、2021 年度は計 6 回の会議と勉強会を終えました。その

後、2021 年度の活動を評価するために参加して頂いた卒業生を対象にアンケート調査を行いました。結果、大半の卒業生が活動に満足感を得ている状態でした。具体的には、「経験の浅い分野の知見を知ることができてよかった」「他施設の理学療法士(卒業生)とコミュニケーションが取れてよかった」「臨床につながりやすい勉強会の内容であったのでよかった」などのコメントが寄せられ、初めての取り組みではありましたが一定の満足が得られたと思われれます。一方で、「勉強会の時間

を 1～2 時間にしてほしい」「特定の疾患に対する理学療法について知りたい」「先輩方へ職場での悩みやキャリア形成などを相談できる機会を設けてほしい」など様々な要望もあり、今後の検討課題となっております。全ての要望に対応することは難しい場合もありますが、可能な限り対応する方針です。今後も参加者が大きな負担を感じることなく、参加へのメリットを見出せるような環境に整備していきます。また、2022 年 3 月に卒業を迎えた卒業生に対して、在学中に同窓会の活動内容を説明させて頂きました。説明会終了後は 15 名程度の学生さんが同窓会の活動内容に興味を示して下さいまし

た。今年度も新たな卒業生をメンバーに迎え入れ、この取り組みを継続しながら徐々に参加者を増やしていければと考えております。

皆様のご協力のおかげで理学療法部会では様々な活動が行っております。今年度も新型コロナウイルス感染症により様々な問題が生じておりますが、より良い理学療法部会となるように活動していく所存です。未筆ではありますが、以上にて理学療法部会の会長挨拶とさせていただきます。皆様ますますのご発展をお祈り申し上げます。

敬具



学校だより

城西放射線技術専門学校 近況報告

令和3年度 城西放射線技術専門学校 卒業式

2022年3月7日(日) 城西放射線技術専門学校 しいの木ホールにて、卒業式を行いました。

コロナ禍ではありましたが、卒業生20名を無事に送り出すことが出来ました。(就職100%)



令和4年度 入学式

2022年4月3日(日) 城西放射線技術専門学校 しいの木ホールにて、入学式を行いました。

今年度の新入生も、初めての登校が入学式でした。緊張の面持ちで学校の正門をくぐり、コロナ対策として全員検温を実施してから入学式が実施されました。ご父母の方々には、1名のみでの参加の連絡の上、別室にて参加して頂きました。開式後、学生の認証を行い、城西学園理事長 城西放射線技術専門学校 校長の新藤博明先生の言葉を頂きました。

日本医療科学大学から、学部長の中谷儀一郎先生も参加頂きました。

学生宣誓代表として、佐藤樹里(さとうじゅり)さんが、宣誓の内容を暗記して元気よく宣誓してくれました。(これから4年間、コロナに負けずに頑張ってください。)

▶学生宣誓 新入生の佐藤樹里さん



日本医療科学大学 近況報告

NIMS スポーツ大会 2021 を開催しました！

令和3年12月21日(火)から12月28日(火)の期間で本学体育館にて、「NIMS スポーツ大会 2021」と称し、バスケットボール大会と本学初の試みとしてeスポーツ大会(大乱闘スマッシュブラザーズ SPECIAL)を開催いたしました。

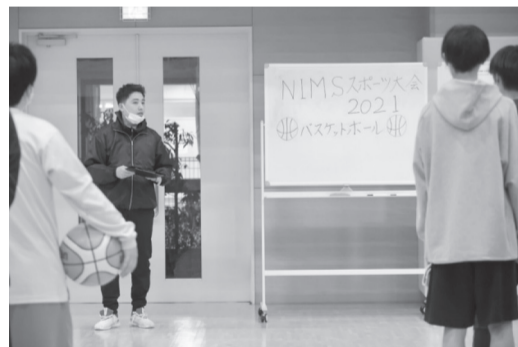
新型コロナの影響もあり、様々なイベントが中止となるなかでの開催ということもありましたが、バスケットボール大会には約85名、eスポーツ大会には約20名、合計で約105名の学生に参加していただくことができました。

学業に励む姿とは違う新たな一面を見せ、白熱した戦いを繰り広げました。また、各学科・専攻で触れ合い、交流を深めることもできました。

学生からは「またぜひ参加したい」「次回はまた違ったスポーツやゲームをやりたい」などの声がありました。今後も様々なスポーツイベントを実施していく予定です。



バスケットボール大会



eスポーツ大会



一人暮らし学生支援を実施しました

令和3年12月27日(月)・28日(火)の期間で一人暮らし学生支援を実施しました。

新型コロナウイルスの影響で帰省できない学生や、アルバイト収入が減少した学生など、学生生活に不安を抱えている学生に対して、学生支援としてレトルト食品の配布を行いました。



牛乳・ヨーグルトを配布しました！

過日、ニュースで取り上げられた牛乳問題について、学生支援として牛乳・ヨーグルトを無償提供いたしました。

令和4年1月5日(水)～7日(金)の期間で、牛乳1500本、ヨーグルト2400個を学内の食堂やカフェで配布いたしました。

ご協力いただいた皆様ありがとうございました。

本学では今後も学生支援を通じ、環境問題・食品ロス問題に取り組んでまいります。



令和3年度学位記授与式について

令和4年3月10日の穏やかな春の日に、川越プリンスホテルにて、令和3年度学位記授与式を執り行いました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止に最大限配慮する観点から、規模を縮小し、卒業生と一部の学内関係者のみで執り行いました。



日本医療科学大学4年生360名が学生生活を終え、医療人として巣立っていきました。卒業生は学生生活の半分が新型コロナウイルス感染症の影響を受け、授業や実習・就活といった様々な場面で困難があったかと思います。それらを乗り越え、巣立った卒業生を誇らしく思います。卒業生のご活躍を心よりお祈りしています。

令和4年度 日本医療科学大学 入学式

令和4年4月4日(月)に日本医療科学大学の令和4年度入学式を挙行いたしました。

昨年度同様に今年度の式典は、新型コロナウイルス感染予防に配慮した上で規模を縮小し、新入生と一部の学内関係者のみで執り行いました。総勢452名の新入生が医療人になるためのスタートラインに立ちました。



新入生からはこれからの大学生活に少しの不安と大きな期待を膨らませている様子が感じられました。教職員一同も新入生の皆さんが充実した大学生生活を送れるように、精一杯尽力していきたいと思っています。

日本医療科学大学 2021年度 国家試験合格率 看護学科 合格率 100%

学科・専攻	出願者数 (既卒含)	受験者数 (既卒含)	合格者数 (既卒含)	不合格者数 (既卒含)	日本医療科学 大学合格率	新卒者 合格率	既卒者 合格率	新卒 全国合格率	全国平均 (既卒含)
診療放射線学科	81 (95)	67 (79)	65 (72)	2 (7)	91.1%	97.0%	58.3%	92.7%	84.7%
理学療法学専攻	68 (73)	57 (62)	54 (57)	3 (5)	91.9%	94.7%	60.0%	88.1%	79.6%
作業療法学専攻	42 (44)	28 (30)	15 (16)	13 (14)	53.3%	53.6%	50.0%	88.7%	80.5%
看護学科(看護師)	76 (83)	76 (83)	76 (81)	0 (2)	97.6%	100.0%	71.4%	96.5%	91.3%
看護学科(保健師)	12 (12)	12 (12)	12 (12)	0 (0)	100.0%	100.0%	0.0%	93.0%	89.3%
臨床工学科	37 (44)	34 (42)	33 (33)	1 (9)	78.6%	97.1%	0.0%	88.1%	80.5%

国家試験合格者

城西放射線技術専門学校 診療放射線技師

赤坂美鹿、赤穂楓花、綾部美咲、井上賢人、加藤拓弥、鎌田一輝、北川雅純、久保田真由、齋藤悠真、直山空瑠美、能塚愛里、林直、福田竜也、三代瑞綺、森山日菜、湯原俊樹、若木佑哉、榎佑、皆川遼太、羽地優、長谷川貴之、前田恭秀、須田麻友、齋藤風輝、今井潤一郎、木島寛紀、山下汐里

日本医療科学大学 診療放射線技師

青木紳一郎、芦澤純名、新井七海、石井歩海、板橋愛、伊藤佳代、岩田香莉、海上翼、江川斗哉、大河原優、大塚早紀、岡田純、小沼美月、笠嶋望夢、粕谷萌々華、神谷真琴、川瀬友香莉、川邊梨津子、菊地春那、鈴木瑛人、高橋亮裕、滝田あかり、竹之内輝野、田島征治、千葉廉、手塚裕奈、寺崎詩歩、寺田聖将、中里日菜乃、中澤宏哉、中根拓海、長原治玄、野村真司、袴塚俊和、初森梨紗、平賀礼、平田安美、平識千恵、米田翔真、町田友紀、松下英史、松藤晨一郎、宮島和貴、村上志乃、室井七弥、山田真央、山本温樹、横塚優斗、吉田昌平、宇知多純、小澤怜弥、加古彩乃、片桐菜々美、高橋愛、内藤里緒、二階堂琴花、芳賀美紗希、饗場翼、細谷祐太、松坂光月、湯浅文香、佐々木大斗、滝澤つぐみ、正木響、戸高竜太

日本医療科学大学 理学療法士

阿由葉光太、市川太一、梅田歩、江原将大、遠藤唯河、大熊千沙都、大崎翔也、大島来輝、大塚瑞菜、岡部希穂、折谷優樹、川上雄太、川田拓未、菊池友希、北湧斗、齋藤希、嵯峨昂輝、佐々木壱将、佐藤京香、佐藤翔太、篠原謙太、関口諒、関谷康起、関根遥己、竹村隼輔、田中一也、田中宏樹、徳田彩沙、中塚ひなた、夏目彩斗、並木稜太郎、奈良侑、根津杏奈、原宏次朗、星野栞莉、松崎利央、武藤京介、森舞羽、柳元亮介、山下智紀、八松生希、吉田航樹、渡邊大成、新井駿介、石山直樹、大宮均斗、齋藤純、佐藤匡、清水健太、宮崎祐也、吉田未蘭、近藤夏樹、辻諒、三浦慎平

日本医療科学大学 作業療法士

上遠野花南、國田夏生、五島千夏、五ノ井孝宗、齋藤優成、杉沼拓郎、高橋祐香、白川龍生、戸澤涼香、保泉渚、政岡志祐、宮崎忠秀、柳沢里奈、山本真由香、藤巻雄斗

日本医療科学大学 看護師

青木真愛、秋田美咲、秋成宥輝、井口凜、池田遥、石井睦海、石角春菜、石川絵美里、石川祥、石森陽奈、猪瀬麻美、猪爪春香、印藤海音、占部帆風、海野真希、大河原希夏、大久保拓朗、大嶋千英莉、大槻夏美、大野善之、勝又麻衣、金子聖、金子紗耶乃、菊池和音、菊池珠音、窪田桃香、栗原七海、

小玉芽依、後藤紗也、小林秀歌、権田里紗、齋藤桃葉、坂井彩華、佐藤朋恵、佐藤優菜、志賀龍生、白倉由史安、杉田葉津季、瀬戸美樹、高井彩花、高橋歩、千葉結依子、都築沙樹、勅使河原裕香、永島綾美、難波舞、新妻理恵子、西原悠真、庭山一彩、野村笑理香、榛原直之、橋本わか菜、濱望、濱野藍、林美智子、古瀬慎平、増田有香、松下蓮奈、茂木恵、安田一真、柳川悠、山口明莉、山田萌衣、吉田二千佳、若林未樹乃、篠塚海希、一ノ瀬綾乃、加藤なつ美、河野妃奈、工藤由佳、小林未来、齋藤なるみ、神恵樹、中村美月、宮地由子、依田真由子

日本医療科学大学 保健師

石井睦海、石川絵美里、大槻夏美、大野義之、勝又麻衣、栗原七海、小林秀歌、志賀龍生、難波舞、新妻理恵子、野村笑理香、茂木恵

日本医療科学大学 臨床工学技士

伊藤悦希、上野吹雪、大治光一郎、岡田稜都、岡本太郎太、岸隼人、北原直樹、北村聖菜、倉片綾音、黒澤美奈、小池諄弥、小澤卓未、後藤涼太、小林優紘、佐藤千尋、清水海斗、須藤風花、田沼公義、鶴岡瑠衣、冨塚みつぎ、中島輝樹、永田雄大、永野由佳、中村楓、林航喜、原総一、藤井啓希、星遼馬、松永佳子、南まりや、山根卓道、吉永優紀、渡邊啓斗

令和3年度 全国国家試験合格率

	出願者数	受験者数	合格者数	合格率
診療放射線技師	3,599人	3,245人	2,793人	86.1%
(うち新卒者)	2,927人	2,613人	2,447人	93.6%
理学療法士	13,377人	12,685人	10,096人	79.6%
(うち新卒者)	11,141人	10,549人	9,296人	88.1%
作業療法士	5,920人	5,723人	4,608人	80.5%
(うち新卒者)	5,013人	4,861人	4,311人	88.7%
保健師	8,020人	7,948人	7,094人	89.3%
(うち新卒者)	7,525人	7,504人	6,975人	93.0%
看護師	65,684人	65,025人	59,344人	91.3%
(うち新卒者)	59,440人	59,148人	57,057人	96.5%
臨床工学技士		2,603人	2,096人	80.5%

ホームページのお知らせ

JJN 同窓会のサイトより会員の情報変更も可能となっておりますのでご利用ください。

<https://www.josai-rad.ac.jp/JJNdosou/>

また、ホームページや会報、会誌に載せたい情報や報告がございましたらどしどしご連絡ください (jjn_sudo@ymail.ne.jp 須藤まで)。楽しい情報をお待ちしております。

facebook との連動中です。皆様、ぜひフォロー登録をお願いいたします。

<https://www.facebook.com/jjndousoukai/>

JJN同窓会役員募集

同窓会では役員を募集しております。運営に興味がある方、同窓会でやってみたいことがある方、母校に恩返しをしたいと考えている方、職場以外で仲間を作りたい方、ぜひご連絡をください。お待ちしております。

問い合わせ jjn_sudo@ymail.ne.jp まで

JJN同総会誌について

平成24年3月以前の同窓生は、会誌が有料となります。今年度の会誌希望の方は同封の振り込み用紙にて1,000円をお振込み下さい。(12月発行予定) 同窓会事務局

編集後記

私事なのですがこの5月に還暦を迎えます。ありがたいことに再雇用にて引き続き同じグループで働かせていただけることとなりました。思い起こせば18の春、青森を出てきた田舎者が40年余りこの大都会でよくやってきたものだと思心いたします。同じ組織で見習いから始めた診療放射線技師というこの職業。もともとこの仕事に強い執着があったわけではないのですが働き始めてどんどん、どんどん楽しくなっていました。というのもCTの進化、MRIの登場、血管撮影、血管内手術の進歩など、息ぬく暇もないほどの時代の激しい流れがあったおかげだと感じています。とにかく仕事が楽しくてたまらない日々を送っ

てくることができました。もちろん、辛いことがなかったわけではありませんが、それ以上の喜びや、仲間がいてくれたこと、そして何よりも自身が健康だったこと、田舎の両親が健在であること。家族の理解があったこと。様々な因子が私の人生をうまく進めてくれたおかげで今日を迎えることができたのだと感謝しかありません。これから今までは別の角度から医療に携わっていきませんが、諸先輩方のバイタリティー溢れる生きざまに負けぬよう、後輩たちの活躍に力を添えられるように医療という仕事を愛していきたいと思っています。

(編集部 須藤英明)